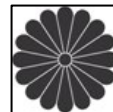


じょうもん
受賞者：浄門の里づくり協議会

にのへし じょうぼうじまち
(岩手県二戸市浄法寺町)

天皇杯
受賞年：平成24年



むらづくりの経緯

- ・盆正月等に子や孫が帰って来なくなり、村が廃れる危機感を持ち始めた
- ・集落に若者が帰って来る方策を検討するため、40～50歳代を中心とした村づくり検討準備委員会を立ち上げ、平成8年に門崎むらづくり推進協議会を設立
- ・「21世紀に向けた10ヵ年むらづくり計画」の策定、「地域の共同作業参加」を強要しない、「地域に住むことの誇りと喜び」をもてる村づくりを活動理念に掲げる

受賞当時

集落の住民がとことん話し合い、「自分たちの住むむらは自分たちの手作り」を合言葉に全戸参加の協議会が活動を展開

生産活動の特色

- 女性農業者が農業所得向上のため産直組合を設立。兼業農家の配偶者がそれぞれの特技を活かして産直施設を整備
- 少量多品目栽培生産を行い、特に林床栽培のマイタケは遠方から購入客が訪問するなど、一番の人気商品となっている

地域づくりの特色

- むらづくり計画に基づいた集落全員参加による活動を展開
- 産直施設を核とした各種イベント開催による集客
- 住民自らがコミュニティセンター、農村公園、水車小屋、炭焼き小屋を整備し、明るく住み良い農村環境を実現
- 年間を通じた幅広い世代間のイベント開催、盛岡市町内会等都市住民との交流による田植え体験、ホテル観察会の開催、収穫祭の開催で集落に活力があふれている

～受賞直後の効果～

- ・メディアで取り上げられ、来訪者が増加
- ・住民自らが整備した薪焚き温泉が地区内外住民の交流の場になった
- ・視察受入依頼、講演依頼の増加

現在(令和5年フォローアップ時)

評価ポイントの取組状況

- 受賞当時の協議会構成戸数は19戸で、平成30年には家族の事情による転居等で17戸に減少したものの、その後は現在まで17戸を維持
- 盛岡市町内会等都市住民との交流活動は、近年の新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止を余儀なくされたものの、地元農産物の販売などの連携は継続
- 住民の協働による草刈りなどの環境保全活動のほか、整備した施設を活用した炭焼き、郷土菓子づくり等の住民交流に係る取組を継続
- 産直組合「浄南ママ直センター」では、地域特産のマイタケや、地元のエゴマとくるみを使った串もちが人気で、遠方から多くの消費者が訪問し、販売額が維持されている。



交流の核となる産直

今後の展開

- 高齢化や後継者不足が進展していることから、集落活動や農業生産の維持に向け、地域おこし協力隊との連携や集落営農組織の設立などを検討していく
- 新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、幅広い世代間の交流や年間を通じたイベントの再開等により、活力ある地域を維持する

受賞者：NPO法人 とうもんの会 （静岡県掛川市）

内閣総理大臣賞
受賞年：平成24年



むらづくりの経緯

- ・農地転用や離農が進み、農業を基盤とした暮らしや文化が崩壊しつつあるとの危機感を持った地域住民がワークショップを開始。
- ・その中で水田を開拓した先人の偉業を知ること、地域の農地・農業の尊さを伝承し、農業を育てる必要性を認識するとともに、非農家の住民の方々に農業の多面的機能を目に見える形で情報発信や地域農家の意識改革を行う取組を任意団体として開始。
- ・H18年にはNPO法人を設立し、補助事業で整備した「とうもんの里総合案内所」を拠点として本格的に活動を開始。

受賞当時

生産活動の特色

- 直売活動
 - ・とうもんの会では直売所を経営し、毎週、金土日に朝市を開催。賛同する農家232人が出荷し、売上げは年間4,000万円。
- ブランド品等の開発・販売
 - ・地元食材を使った郷土料理のレシピの作成や特産品・ブランド品の開発・販売による地域経済の活性化。
- 学校給食への食材提供
 - ・地域農産物を集荷し、年間130回学校給食へ食材を提供。

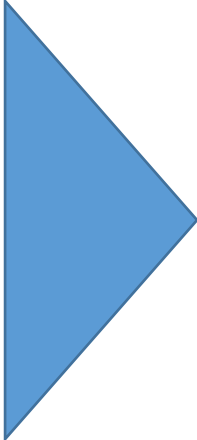
地域づくりの特色

- 地域資源の保全
 - ・地域の子ども達を対象に、田んぼの生き物調査や伝統芸能の伝承への取組。
- 農業・食を伝える事業
 - ・地域を訪れる人々に対して農業・農村体験を実施。また地域の食材を使った料理教室を通じて農業・農産物に関する情報発信。
- 上記イベント等を年間100回以上開催することで、年間約8万人が地域へ来訪（平成23年末 通算30万人）。



～受賞直後の効果～

周囲の見る目が変わった
・来客者からの声掛け
・地域内では農産物の出荷者が増加した
自分たちの進む方向の正しさを確認。一方、周りの目が厳しくなり、ハードルが高くなる。
来訪者：8万人→10万人
朝市売上：16%アップ

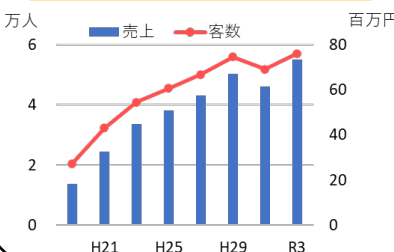


現在（令和5年フォローアップ時）

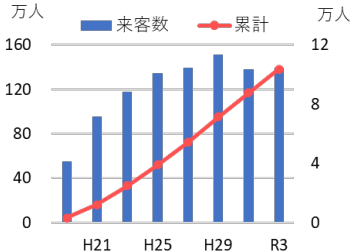
評価ポイントの取組状況

- 毎週、金土日に開催する直売所「朝採り市」は定着。賛同する農家数は384人に増加し、売上は年間7,300万円。加工品の販売も順調である。
- 地域農産物を集荷し、毎年100回を上回る学校給食への食材提供を継続。
- 地元の大学と連携し、子ども達を呼び込むプロジェクトを実施。田んぼの生き物調査や田園環境の大切さを教えると共に大学生にも学びの場を提供する。
- 地元高校との連携も開始。直売所のポップ作りなどを通して、地域の農業へつなげる活動を進めている。
- 農業・農村体験メニューには農業者自らが講師として参画する体制を推進。参加した子どもの父兄等地元の若い住民が会の取組に協力する循環も生まれている。
- コロナ禍においてイベントの中止があったものの情報発信など可能な活動により確実に集客し、客を呼び込み、年間約10万人が地域へ来訪。（平成30年に100万人達成。毎年10万人が来訪している。）

朝採り市の状況（単位：万人、百万円）



来館者の推移（単位：万人）



今後の展開

- 発足から16年が経過し、引き続き経営の次世代への継承が大きな課題となっており、行政等と今後の改革について具体的な検討を行い、実行する。
- 組織の若返りのため、新規で若年者を法人へ受け入れる。

げん な にしのおもて
受賞者：現和校区 (鹿児島県西之表市)

日本農林漁業振興会会長賞
受賞年：平成24年

日本農林
漁業振興
会会長賞

むらづくりの経緯

- ・現和校区は、市の中心部から東へ約7kmのところに位置し、さとうきび・さつまいも・畜産を中心とした農業が展開されている。
- ・第1次産業の低迷、少子・高齢化、文化・芸能の継承者の減少などの課題に対し、平成3年から「出せ知恵を！掘り興せ現和の宝を！！」を合言葉として、第1次産業の推進と地域文化の継承を柱とした活動を開始した。公立保育園の廃止など行政の関与がなくなる部分を地域の力で補い、農業の振興、物産館や保育園の運営、伝統芸能や食文化の継承等、様々な活動を展開している。

受賞当時

生産活動の特色

- 他地区に先駆けてほ場整備を実施。機械化・省力化に取り組み、特にさとうきびの生産振興に力を入れ、受託面積が増加している。
- 園芸振興会の活動により安納芋やスナップエンドウも生産振興され、後継者の増加に繋がっている。また、和牛振興会の活動により市の畜産共進会で優勝している。
- 当該地区で生産された農産物の消費拡大や現和校区のPRを目的として、平成21年、西之表市街地に「現和物産館」を開設し、特に高齢・小規模農家の生産意欲向上と生きがいづくりに繋がっている。

地域づくりの特色

- 「風本神社」を中心とした郷土芸能が数多くあり、集落単位での掘り起こしと保存に努め、小中学生への継承に取り組んでいる。
- 生活研究グループ「たいまきオバン」は、地元農産物を使った加工食品の研究・開発などを行っており、食文化の継承や後継者の育成に大きく貢献している。
- 廃止が決まった公立保育園に代わって、「社会福祉法人現和会」を設立し、保育園を運営する他、中学校跡地の特別養護老ホームの誘致に協力するなど少子・高齢化への対応を行っている。



たいまきオバンによる加工品づくり



小学生に継承された伝統芸能

～受賞直後の効果～

・12月に県主催の「地域ビュー体験ツアー」参加者、JA種子屋久女性部の現地視察を受入

・1月の風本神社歓学祭の様子が鹿児島テレビ、南日本新聞で報道

現在(令和5年フォローアップ時)

評価ポイントの取組状況

- さとうきび生産における継続的な作業受託に取り組んでいる。
- 安納芋やスナップエンドウ・ばれいしょ・ブロッコリーなどの生産振興により、農業後継者の確保に繋がっている。
- 生活研究グループ「たいまきオバン」による地元農産物を使った加工食品の生産を継続し、食文化の継承に貢献している。
- 現和物産館は地区外の管理者に移譲されたが、地元農産物の出荷は継続しており、地区内外の農産物や加工品の販売拠点となっている。
- 郷土芸能については、コロナ禍により令和2年より神事のみを継続。
- 保育園とそれに隣接する高齢者福祉施設との交流活動や、「校区高齢者支援協議会」による高齢者マップづくりなど、高齢者のサポート活動等による少子・高齢化に対応する地域づくりを展開。



「たいまきオバン」による加工品(みそ)



高齢者マップづくり



神事(歓学祭)の継続

今後の展開

- 農産物生産振興による継続的な後継者の確保
- 神事や郷土芸能の小中学生への継承
- 防災マップの見直しにおける高齢者居住地や連絡網の整備等による高齢者のサポート活動の充実